

平成7年6月13日

”早朝抜き打ち参集訓練実施”

災害に備え、幹部職員の抜き打ち参集訓練が13日行われた。昭和56年から例年、緊急非常配備態勢指定職員（通勤4km圏）を対象に行われてきたが、幹部職員（78名）を対象としたのは今年初めてのこと。

「東海地震の警戒宣言が発令された」との想定で、午前6時15分に10回線を使用（8分間）し招集。防災宿日直に当たっていた教育委員会指導室長が同6時32分に到着。約30分後の同6時45分には3人、約1時間後の同7時20分には12人、同8時の区長への報告会までに到着できたのは、約半数の40人（51.3%）だった。参集人数が一番多かったのは、8時01分から8時10分の間で19人。8時30分までには公務出張の8人を除き、70人の幹部職員が参集した。

報告会の席上で、加藤区長は、「このような訓練を繰り返して、災害に備えることが大事である。阪神大震災後に社会を揺るがす様々な事件が起き、災害に対する危機感が少し薄れてしまった観があるが、本区緊急災害対策点検調査委員会の中間報告もあり、16日から始まる区議会定例会において「災害対策事業経費」を計上した補正予算が審議されることでもあり、職員に対してもなお一層防災に対する意識を徹底してもらいたい」と話した。

10月に行われる総合防災訓練までに、あらためて幹部職員を含め緊急非常配備態勢指定職員の参集訓練を実施する予定。「実践に即した内容をまじえ、昨年訓練での反省を踏まえて迅速に対応できるよう器材を調達しているところ」南保防災課長は話している。

・詳細 企画部広報課